

令和7年度 宮の原小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】 豊かな人間性を持ち、主体的・創造的に生きていくことができる健康でたくましい子どもの育成
【目指す子ども像】 ・「自ら考え主体的に学ぶ子ども（本気で学べ）」
・「たくましい心と健やかな体を持ち、元気でがんばれる子ども（元気に遊べ）」
・「正しい判断力を持ち、明るく思いやりのある心豊かな子ども（正しく生きよ）」
・「人や社会のために進んで働く子ども（喜んで働く）」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童一人一人が自分のよさや可能性を伸ばせる学校、教職員が働きがいを実感できる学校、家庭や地域との連携・協働による地域とともにある学校づくりを目指す。

「学びのある学校」 豊かな体験を通して、自信をもち自立した子どもを育む学校

「活気ある学校」 心身ともに健康で、のびやかな子どもを育む学校

「笑顔いっぱい」の学校」 友達と活動し、ともに生きる喜びを感じる学校

「地域とともにある学校」 家庭、地域と協働して子どもを育む、地域に開かれた学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育む教育を実践し、カリキュラムマネジメントにより学習効果の向上を図るとともに、本年度の重点目標について学校・保護者・地域が共有しながら特色ある教育活動「宮小けやきプラン 2025」を推進する。
- (2) 全ての教職員が学校経営の理念に基づき目標を共有化し、自己研鑽に努めながら児童一人一人を大切にされた教育活動を実践する。また、教職員が生き生きと健康で働きがいを実感できるよう、働き方改革の視点に立ち、リフレッシュウィーク等の勤務時間を意識した働き方の推進や業務の適正化を目指す。
- (3) 地域協議会と連携しながら、地域教育力の積極的な活用と人材発掘、地域行事との連携、積極的な情報発信と学校公開等を通して家庭・地域と一体となった地域に根差した取組の充実を図り、地域とともにある学校づくりに努める。一条地域学校園（小中4校）の連携強化により、積極的な情報共有と児童生徒の実態に即した取組を通して小中一貫教育を推進する。
- (4) ○小中一貫教育の推進 小中4校の連携強化（積極的な情報共有）と児童生徒の実態に即した取組の推進

【一条地域学校園教育ビジョン】 基本をしっかり身に付け、地域に生きる子どもを育む一条地域学校園

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育基本法、学校教育法及び同施行規則、新小学校学習指導要領の示すところに従うとともに、「栃木県教育振興基本計画 2025」及び「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策」の趣旨に基づきながら、本校児童の実態を踏まえ、教育目標の具現化が図られるよう調和と統一のある教育課程を編成する。
- (2) 本年度の経営方針、努力点や具体策、前年度活動の評価等を踏まえ、地域社会の実情・児童の心身の発達段階や特性・子どもの育成にかかわる多くの関係者の願いを考慮し、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指した特色ある教育活動「宮小けやきプラン 2025」を推進する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

・「本気で学べ」「元気に遊べ」「正しく生きよ」「喜んで働く」を目指す子ども像として、全教職員が協働し活気ある学校づくりに努め「宮小けやきプラン 2025」を推進

○「小中一貫教育と地域学校園」の取り組みの推進

【学習指導】

・自分の思いや考えをもち、進んで伝え合い、学び合う児童の育成

【児童生徒指導】

・人とかかわりを通して、きまりを守ったり人を思いやったりすることができる児童の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

・自らの健康と安全に関心を持ち、進んで体力づくりに励む児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性 評価 表中数字：上段 R6年度 下段 R7年度 太数字：前年度比 ±5ポイント												
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「私は, 学習課題を解決するために, 友達と話し合ったり, 必要な情報を集めたりしながら, じっくり考え, 進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が自ら課題を見付け, 主体的に学習に取り組めるよう工夫する。 ・個人の考えを深められる場面や進んで伝え合える場面の設定を意識したり, 個人用パソコンを活用したりして, 学び合いがより深まる取組をしていく。 ・安心して発表できる, 認め合い, 励まし合う教室環境づくりに努める。 	<p>【達成状況】A1 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1054 398 1517 533"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>93.9</td> <td>100</td> <td>87.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>94.9</td> <td>100</td> <td>93.4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・学年や教科に応じた魅力ある学習課題を設定し, 児童が主体的に学習に取り組めるよう工夫した。 ・個人の考えを深められる場面や進んで伝え合える場面の設定を意識したり, 一人一台端末を活用したりして, 学び合いがより深まる取組をしてきた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自ら課題を見付け, じっくり学習に取り組めるよう支援していく 	児童	教職員	保護者	地域	93.9	100	87.7		94.9	100	93.4	
児童	教職員	保護者	地域												
93.9	100	87.7													
94.9	100	93.4													
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「私は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している」。</p> <p>⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全般をとおして, 思いやりの心の大切さを感じたり考えたりする機会を増やす。 ・日常生活の中で, 児童の親切な行動を称賛したり, 紹介したりしていく。 ・異学年での活動やボランティア活動を推進していくことで, 思いやりの心をもって協力し合う活動の充実を図っていく。 	<p>【達成状況】A2 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1054 981 1517 1099"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>91.8</td> <td>100</td> <td>94.5</td> <td>94.4</td> </tr> <tr> <td>91.6</td> <td>100</td> <td>96.3</td> <td>87.5</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・異学年での活動やボランティア活動を実施することで, 思いやりの心をもって協力し合う活動の充実が図れた。 ・道徳教育を要として思いやりの心について考えさせ, より良い人間関係を育めるような取組をしてきた。 ・児童の親切な行動を称賛したり, 紹介したりすることを意識し, よりよい人間関係の充実が図れた。 ・異学年交流を実施することができ, 思いやりの心をもって協力し合う活動の充実が図れた。 ・「宮の原ワード」を作成し, 暖かい学級となるような具体的な声掛けができるように取り組んできた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常日頃から, 児童の親切な行動を称賛したり, 紹介したりすることを意識し, よりよい人間関係を育てていけるようにする。 ・他のよい行動を校内に掲示することで, 思いやりのある行動の模範を示していけるようにする。 ・引き続き「宮の原ワード」を活用し思いやりのある心の育成に努めていく。 	児童	教職員	保護者	地域	91.8	100	94.5	94.4	91.6	100	96.3	87.5
児童	教職員	保護者	地域												
91.8	100	94.5	94.4												
91.6	100	96.3	87.5												

	<p>A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や活動において、目標を明確にし、ゴールを意識させることで、児童が見通しをもって粘り強く取り組むことができるようにする。 ・キャリアファイル等を活用し、なりたい自分を意識させることで、自分のよさを伸ばしたり、粘り強く努力できたりするように、学校と家庭の両面から児童を励ましていく。 ・学び合う場や協力し合う場を意図的に設定し、共に高め合い、励まし合いながら取り組むことができるようにする。 ・定期的に目標を確認したり、振り返ったりする機会を設けるなど、継続して努力できるように励ましていく。 	<p>【達成状況】A3 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1058 147 1517 266"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>93.5</td> <td>100</td> <td>81.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>92.0</td> <td>100</td> <td>85.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアファイルを活用し、粘り強く努力できるよう励ましてきた。 ・互いに高め合い励まし合える場を意図的に設定することで、困難な課題に対しても周囲と支え合いながらやり抜こうとする態度の育成に努めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果だけでなく、努力しているプロセスを教師や周囲が認め、児童自身に自覚させることで、継続への意欲をさらに高めていく。 ・キャリアファイル等の活用を進め、家庭との共有を継続することで、多様な視点から児童を励ます体制を強化する 	児童	教職員	保護者	地域	93.5	100	81.0		92.0	100	85.0	
児童	教職員	保護者	地域												
93.5	100	81.0													
92.0	100	85.0													
<p>1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭や学校栄養職員が保健指導や食育指導に積極的に関わったり、「食育だより」や「保健だより」を発行したりして、児童や保護者に健康についての意識付けを図る。 ・児童会活動を中心に健康や安全について呼び掛ける機会を設ける。 ・登校指導や下校指導に加え、定期的な班長による振り返りを行うなどして、継続的に安全な登下校の指導を行う。 ・地震・火災、不審者対応、竜巻等あらゆる災害を想定した避難訓練を行い、安全な生活の意識付けを図る。 	<p>【達成状況】A4 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1058 891 1517 1010"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95.7</td> <td>95.5</td> <td>90.8</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>95.8</td> <td>100</td> <td>95.4</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会や委員会による呼び掛け、通学班長による定期的な振り返りを行うことで、日常的な健康・安全生活への主体性を促した。 ・地震・火災・不審者・竜巻など、多様な場面を想定した避難訓練や交通安全教室を実施し、いかなる状況下でも「自分の身を守る」ための判断力を養う意識付けを図った。 ・養護教諭や学校栄養職員による専門的な指導に加え、「保健だより」「食育だより」を継続して発行したことで、児童だけでなく保護者の健康意識も高めることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活や安全な生活について、引き続き様々な活動を設定し、意識付けを図っていく。 ・健康や安全に関する情報を、児童が自ら収集・発信する機会をさらに設け、自分事として捉える活動を充実させる。 	児童	教職員	保護者	地域	95.7	95.5	90.8	100	95.8	100	95.4	100
児童	教職員	保護者	地域												
95.7	95.5	90.8	100												
95.8	100	95.4	100												

1-(4)
将来への希望と協働する力を育む教育の推進

A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。
【数値指標】全体アンケートの「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」
⇒児童の肯定的回答
85%以上

- ・学級活動や児童会活動を通して、生活をより良くするためにできることを考えたり、協力して活動する場面を設定したりする。
- ・キャリアファイル等を活用し、自分の成長を見つめることで、段階的に成長を実感させる。

【達成状況】A5 (○)

児童	教職員	保護者	地域
91.8	100		
93.2	100		

- ・学級活動や児童会活動において、自分たちの生活をより良くするための課題を見出し、協力して解決に向けた活動を設定したことで、集団の一員としての自覚と協力する姿勢が育った。
- ・キャリアパスポートファイルを活用し、定期的に自己の歩みを振り返る機会を設けた。これにより、児童が自分自身のよさや段階的な成長を具体的に実感することができ、自己肯定感の向上に繋がった。

【次年度の方針】

- ・児童が自分たちの生活を客観的に見つめ直し、主体的に改善策を立案・実行できるよう、対話の場や意思決定の場面を工夫していく。
- ・一人一人のよさや考えが尊重され、周囲と協力し合いながら共通の目標を達成する経験を積み重ねることで、充実感や達成感をより深く味わえるようにする。

B

2-(1)
グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進

A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。
【数値指標】全体アンケートの「私は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」
⇒児童の肯定的回答
85%以上

- ・コミュニケーションツールの一つとして、個人用パソコンを利用して、自分の考えを表現できるようにする。
- ・スモールトークを積極的に活用し、教師とALTのやり取りから教師と児童とのやり取りへとつなげていく授業づくりをする。
- ・クラスルームイングリッシュを活用し、授業中の英語の割合を増やす。
- ・授業以外の場面でも積極的に英語に触れる機会を設けるようにする。

【達成状況】A6 (○)

児童	教職員	保護者	地域
92.8	100		
89.5	100		

- ・高学年は、外国語の授業を通して、英語での表現に触れる機会を多くもつことができた。
- ・中学年以下は、ALTとのやり取りを真似して積極的に英語に親しんだ。
- ・クラスルームイングリッシュの活用が不十分であった。

【次年度の方針】

- ・児童同士で外国語を使った活動を多く取り入れていく。
- ・スモールトークを積極的に活用し、教師を児童とのやり取りへとつなげていく授業づくりをする。

B

A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。
 【数値指標】全体アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている。」
 ⇒児童の肯定的回答 85%以上

- ・生活科・社会科・総合的な学習における校外学習、地域人材との協力の中で、地域や宇都宮に興味をもてるよう学習を進める。
- ・学習の成果を掲示したり、HPに掲載したりして、家庭にも発信する。
- ・宇都宮市のイベントや行事などのお知らせを配付する際や給食の宮っ子ランチのときには、宇都宮のよさを知らせるようにする。
- ・宇都宮学の副読本を活用し、宇都宮の自然や交通、伝統文化に目を向けさせるようにする。

【達成状況】A7 (○)

児童	教職員	保護者	地域
92.5	86.4	73.7	
89.9	100	78.1	

・社会科や総合的な学習の時間の宇都宮学を通し、宇都宮に興味をもち、よさを実感できるような体験学習や調べ学習を取り入れてきた。また、お知らせの配付や宮っ子ランチの際にも、宇都宮の良さを校内放送や紙面で伝えた。

・地域スポーツ団体の出前授業を行い地域スポーツ活動への理解を深めた。

B 【次年度の方針】

- ・生活科・社会科・総合的な学習における校外学習等、地域人材との協力の中で、地域や宇都宮に興味をもてるよう学習を進める。また、学習の成果を教室に掲示したり、ホームページに掲載したりして、保護者にも発信する。
- ・宮っ子ランチや伝統食、トマト給食の際には、校内放送を活用し、宇都宮の特色を知らせるようにする。
- ・宇都宮学の副読本を活用し、宇都宮の自然や交通、伝統文化に目を向けさせるようにする

2-(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進

A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。
 【数値指標】全体アンケートの「私は、パソコンや図書等を学習に活用している。」
 ⇒児童の肯定的回答 90%以上

- ・児童が一人一台端末や図書資料を効果的に使えるような授業展開に努め、児童が機器や図書に触れる機会を多く設定する。
- ・一人一台端末を適切に活用し、教職員がICT機器等を授業の中で効果的に使用できる場を研究し、学習効果を高めていく。
- ・国語や総合的な学習の時間などの調べ学習では、一人一台端末と図書双方の特性を理解し、内容に応じて活用できるよう支援していく。
- ・発表や練習の様子・作品の撮影、デジタルドリルの活用、調べ学習、意見交換等こまめに繰り返し個人用パソコンを活用する。
- ・図書資料やパソコンを活用している様子をHPや学年だより等で発信する。

【達成状況】A8 (○)

児童	教職員	保護者	地域
93.2	100	80.3	
92.8	100	81.7	

・ICT機器や図書資料を効果的に使える授業計画をし、積極的に司書やICT支援員の授業への参画を図った。

・一人一台端末を効果的に活用できる機会を研究し、実際に授業で使用させていくことで、学習効果を高められるよう工夫した。

B 【次年度の方針】

- ・児童が一人一台端末活用や図書資料を効果的に使えるような授業展開に努め、児童が一人一台端末を活用したり、図書に触れたりする機会を多く設定する。
- ・一人一台端末を適切に活用し、授業の中で効果的に使用できる場を継続して研究し、学習効果を更に高めていく。
- ・国語や総合的な学習の時間などの調べ学習では、一人一台端末と図書双方の特性を理解し、内容に応じて活用できるよう支援していく。
- ・図書資料やパソコンを活用した家庭学習を積極的に取り入れていく。

2- (3)
持続可能な
社会の実現
に向けた担
い手を育む
教育の推進

A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。
【数値指標】全体アンケートの「私は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上

- ・エコ・アクション委員会による、電力・水道水の節約の呼び掛けや古紙回収活動、給食委員会による牛乳パック回収を通して、身近にできるエコ活動を推進する。
- ・栽培委員会の花壇の植え替え、児童会の落ち葉集めなどの活動を全校児童に周知することで、環境保全の意識を高めていく。
- ・各教科の授業で環境や防災を意識した指導をしていく。
- ・ESDのどの概念の理解を深めるものにつながるのかを、意識して指導する。
- ・生活目標にSDGsの視点を取り入れる。

【達成状況】A9 (○)

児童	教職員	保護者	地域
94.3	81.8		
92.8	94.4		

- ・児童会の落ち葉集めや委員会の古紙回収・ペットボトルキャップ回収を通して、身近にできるエコ活動を行った。
- ・生活目標にSDGsの視点を取り入れたり、各教科でESDの概念を意識した指導を展開したりした。
- ・学級内でのゴミの分別やリサイクル活動を徹底し、日常の中で環境負荷を減らす具体的な行動習慣が身に付いてきている。

【次年度の方針】

- ・学級で牛乳パックリサイクルやごみを減らすための取り組みを児童に伝え、実践していく。
- ・委員会による、電力・水道水の節約の呼び掛けや古紙回収、ペットボトルキャップ回収、花壇の花の植え替え、児童会の落ち葉集めなどの活動を全校児童に周知することで、環境保全の意識を高めていく。
- ・各教科の特性に応じ、環境保全や防災に関する内容を効果的に織り交ぜた授業を継続する。
- ・引き続き、生活目標にSDGsの視点を取り入れる。

B

3- (1)
インクルー
シブ教育シ
ステムの充
実に向けた
特別支援教
育の推進

A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。

【数値指標】全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童（生徒）の実態に応じて、適切な支援をしている。」

⇒教職員の肯定的回答
90%以上

- ・校内での実態調査や校内支援委員会で把握した児童のもつ課題について情報を共有するとともに、個別の支援を行う。児童の実態に応じて、かがやきルームや特別支援学級の利用も検討する。また、必要に応じて関係機関との連携を図る。
- ・学習支援に関しては、朝の学習時間の活用や、習熟度別学習及びチームティーチングを行い、手厚い支援をしていく。

達成状況】A10 (○)

児童	教職員	保護者	地域
	100		
	100		

- ・校内での実態調査や校内支援委員会で上がってきた児童に対して、情報を共有し、家庭との連携を図り、支援の必要な児童に寄り添った個別の支援を行った。必要に応じて、スクールカウンセラーやかがやきルーム、特別支援学級の利用活用も検討した。
- ・学習支援については、朝の学習タイムや習熟度別学習及びチームティーチングなどを活用し、基礎基本の定着を図った。

【次年度の方針】

- ・今後も校内での支援体制を整え、児童の実態に応じて特別支援学級への編入や、かがやきルームの利用などを検討していく。また、必要に応じてスクールカウンセラーや関係機関との連携を図る。
- ・学習支援に関しては、朝の学習時間の活用や、習熟度別学習及びチームティーチングを行い、手厚い支援をしていく。

B

A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。
【数値指標】全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」
⇒児童の肯定的回答
90%以上

- ・いじめに関するアンケートや教育相談を有効に活用し、事実の把握に努めると共に、いじめは許されない行為であることを徹底できるよう、いじめゼロ運動等の様々な機会を生かして、継続的な指導を行う。
- ・道徳や学活の授業・SNS 出前講座などを通して情報モラルへの関心を高められるように指導を図っていく。
- ・HP や学年だより等で取り組みについて積極的に情報を発信する。

【達成状況】A11 (○)

児童	教職員	保護者	地域
98.2	100	87.0	93.8
97.5	100	84.9	100

- ・いじめに関するアンケートや教育相談の機会を有効に活用し、児童の実態の把握に努め、安心して学校生活を送れるように、常に指導にあたった。
- ・いじめゼロ運動の標語を発達段階に応じて家庭でも児童と一緒に考えてもらうことで、保護者にもいじめ防止に対する意識付けを図った。
- ・インターネットのモラルやマナーを学ぶ機会を設け、ネット上でのいじめ問題にも触れる機会を設けた。

【次年度の方針】

- ・いじめに関するアンケートや教育相談の活用を継続し、いじめに関わる事実の把握に努める。また、いじめゼロ運動などの機会を生かして、いじめは許されない行為であることを継続して指導していく。
- ・一人一台端末の導入により、ネット上のトラブルが全国的に課題になっているので、道徳や学活の授業・SNS出前講座等を通して情報モラルへの関心を高められるように指導を図っていく。
- ・保護者に向けて積極的に情報を発信し、啓発を図っていく。

B

A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。
【数値指標】全体アンケートの「先生方は、一人一人を大切にし、児童（生徒）がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」
⇒児童の肯定的回答
90%以上

- ・教師が中心となり、児童同士が認め合えるような機会や雰囲気づくりを心掛ける。また、学級の係活動や特別活動の中で自己有用感を感じられる場を設ける。
- ・行き渋りなどの兆候が見られたときには、保護者との連絡を密にしたり、校内不登校対策委員会を開催し関係機関につないだりする。
- ・学校キラリ賞の機会を活用し、学級学年内で互いのよさに気づき認め合う雰囲気づくりに努める。
- ・HP や学年だより等で取り組みについて積極的に情報を発信する。

【達成状況】A12 (○)

児童	教職員	保護者	地域
97.8	100	91.9	
99.2	100	98.1	

- ・日常生活や学習場面の中で、自己有用感を感じられるような活動を意識した。
- ・学級に居がい感があり、安心して学校生活を送れるように、多様な意見やお互いを認め合う機会を設けた。
- ・温かな言葉掛けを意識したり教育相談を活用したりした。
- ・行き渋りなどの兆候が見られたときには、保護者との連絡を密にしたり、職員間で情報共有をしたり、スクールカウンセラーへの相談を勧めたりした。

【次年度の方針】

- ・教師が中心となり、児童同士が認め合えるような機会や雰囲気づくりを心掛ける。また、学級の係活動や特別活動の中で自己有用感を感じられる場を設ける。
- ・行き渋りなどの兆候が見られたときには、保護者との連絡を密にしたり、校内不登校対策委員会を開催しスクールカウンセラーや関係機関につないだりする。

B

<p>3- (3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大 切にされ、活気があり、 明るくいいきとした雰 囲気である。 【数値指標】全体アンケート の「先生方は、困ったときに 相談に乗ってくれたり、問題 を解決しようとしたりして、 私たちが楽しく学校生活を送 れるようにしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよしタイム等の縦割り班活動の 充実。児童会主体のあいさつ運動、 特別活動や学校行事を通して、明る い雰囲気・互いのよさを認め合える 雰囲気づくりに努める。 ・HP や学年だより等で子どもたちが 生き生きと活動している様子を積極 的に発信する。 	<p>【達成状況】A13 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1058 143 1506 264"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.8</td> <td>100</td> <td>89.6</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>98.3</td> <td>100</td> <td>94.3</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 縦割り班活動（なかよしタイム、ウオ ークラリー）やあいさつ運動、いじめゼ ロ運動などを通じて「人とかがわる力」 を伸ばす児童が多く見られた。 ・ 学校全体で様々な学級経営の取組を 実践することで、児童が前向きな気持 ちで互いに励まし合いながら生活する 様子が見られた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童会活動や特別活動、学校行事を通 して明るい雰囲気づくりに努める。 ・ 毎日の学級経営の中で、互いのよいと ころを見付けたり、互いに認め合っ たりする活動を設定する。 ・ HP や学年だより等で取り組みについ て積極的に情報を発信し、保護者への 啓発を図っていく。 	児童	教職員	保護者	地域	97.8	100	89.6	100	98.3	100	94.3	100
児童	教職員	保護者	地域												
97.8	100	89.6	100												
98.3	100	94.3	100												
<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業 や児童にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】全体アンケート の「先生方は、勉強を分かり やすく、一人一人に丁寧に教 えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全校体制で、課題の明確な提示や分 かりやすい発問・板書を工夫し、児 童一人一人が分かる授業を目指す。 ・ 授業の中で、ペア学習やグループ学 習、話し合い、ホワイトボード、タ ブレット端末などを活用し、児童の 主体的・対話的な活動を効果的に取 り入れる。 ・ 授業研究を行い、児童の実態に即し た内容の指導方法の工夫を行う。（一 人一授業、学校課題の研究等） ・ 個に応じた指導により、基礎基本の 定着を図る。（ステップアップタイ ム、家庭学習強化週間） 	<p>【達成状況】A14 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1058 1075 1506 1196"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.8</td> <td>100</td> <td>88.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>97.5</td> <td>100</td> <td>89.8</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童一人一人が分かる授業を目指し、 課題の明確な提示や分かりやすい発 問・板書を工夫した。 ・ 学校課題に関する授業研究を重ね、授 業改善に向けて教師の意識と授業力を 高めることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICTの有効活用や少人数指導・習熟度 別学習の充実を図りながら、個別最適 な学びと協働的な学びを組み合わせた 授業づくりを推進していく。 ・ 児童が自ら問いを立て、対話を通して 考えを深める活動を取り入れながら、 思考力・判断力・表現力等の育成を図 る。 	児童	教職員	保護者	地域	97.8	100	88.8		97.5	100	89.8	
児童	教職員	保護者	地域												
97.8	100	88.8													
97.5	100	89.8													

4- (2)
チーム力の
向上

A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。
【数値指標】全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」
⇒教職員の肯定的回答
90%以上

- ・校務分掌や学習指導、児童指導等において、OJTを促進し、若手教員の育成を図る。
- ・個々の役割と責任を明確にした上で、同僚に対する気配りをしながら、相互に協力して業務を行う。
- ・学級経営や校務分掌などで、心配や困ったことがあるときには、周囲に相談したり、心配や困りごとを抱えている同僚には、周囲から声を掛けたりし、皆で早期に改善を図る。

【達成状況】A15 (◎)

児童	教職員	保護者	地域
	100		
	100		

- ・ 個々の役割を相互協力しながら行うことができた。
- ・ 教職員が相互に授業を参観し学び合うことができた

【次年度の方針】

- ・ 継続して、校務分掌や学習指導、児童指導等において、相互に協力し、早期に解決を図るようにする。
- ・ 継続してOJTを促進し、若手教員の育成を図る

4- (3)
学校における働き方改革の推進

A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。
【数値指標】全体アンケートの「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」
⇒教職員の肯定的回答
85%以上

- ・ 校内掲示板を活用した事務連絡、会議資料のデジタル化等、業務の見直しを図り、全体の効率化を目指す。
- ・ 打合せや会議の内容を精選したり、関係者と事前に相談したりして回数・時間の削減を図る。
- ・ 自分自身で毎日の勤務時間を意識し、(毎月の超過勤務時間45時間以内を目標に)するとともに、月1回のリフレッシュウィークを各自が有効活用し、定時退勤への意識を更に高めていく。

【達成状況】A16 (○)

児童	教職員	保護者	地域
	95.5		
	94.4		

- ・ ミライムの掲示板やアンケート機能さくら連絡網を有効活用し、打合せの回数や印刷の手間を減らすことで効率化を図ることができた。退勤時刻について、全職員が互いに意識し合うことで、超過勤務時間減少を意識する傾向が見られるようになった。

【次年度の方針】

- ・ 打合せや会議の内容を明確化・精選する意識を高め、回数・時間を削減するとともに、話し合う内容について各自が焦点化し効率よく進められるように工夫する。
- ・ 継続して毎月リフレッシュウィークを設定し、優先順位を決めて業務に取り組むなど意識付けを図る。

5- (1)
全市的な学校運営・教育活動の充実

A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。
【数値指標】全体アンケートの「学校は、児童生徒や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」
⇒教職員の肯定的回答
85%以上

- 地域や学校園と連携した「小中一貫の日あいさつ運動」を継続して行い、さらに年2回小中合同実施を推進する。
- ・ クリーンアップキャンペーンに、地域住民や保護者が来校し、小学生とともに校庭清掃を実施する。
- 学習や体力の向上、図書館教育、食育(学校園統一献立)、児童生徒指導(いじめゼロポスター掲示)など様々な領域において学校園で取り組んでいることを児童に還元し、周知に努める

【達成状況】A17教職員 (○)

児童	教職員	保護者	地域
93.3	95.5	92.1	100
91.6	100	94.0	100

- ・ 活動方法を工夫しながら行った。
- ・ 地域学校園の取り組み(あいさつ運動・読書週間・運動会のボランティア参加等)を各種便り・HP等で、児童・保護者に周知した結果、児童が活動に参加する機会が増えた。

【次年度の方針】

- ・ 継続して地域学校園で連携し、相互交流を深めていく。

<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターを活用して、教育活動全般にわたり協力を得られる人材を増やしたり、学校園で協力して人材確保に努めたりする。 ・企業の出前講座等を積極的に行ったり、地域人材の参画を得た授業を行ったりし、地域の教育力をさらに学校に取り入れていくとともに、各種便りやHPで取り組みを発信していく。 	<p>【達成状況】A18 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1054 147 1493 264"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95.7</td> <td>100</td> <td>92.7</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>94.5</td> <td>100</td> <td>96.2</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を精査し、外部との連携が効果的か吟味し取り組むことを心掛けた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して、家庭・地域の人材の参画を得た授業や企業の出前講座等を積極的に行い、便りやHPで発信していく 	児童	教職員	保護者	地域	95.7	100	92.7	100	94.5	100	96.2	100
児童	教職員	保護者	地域												
95.7	100	92.7	100												
94.5	100	96.2	100												
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による校内施設等の定期的な安全点検を行い、結果の共通理解を図るとともに、不備な点は早急に対処する。 ・校内や学校周辺で危険が予想されるときには、さくら連絡網やホームページ、学校だより等により周知を図るとともに、安全に対する取組を積極的に発信する。 	<p>【達成状況】A19 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1054 667 1493 784"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>100</td> <td>94.8</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td></td> <td>100</td> <td>92.4</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・月に一度安全点検を実施し、全職員で学校敷地内の点検場所を分担して、施設設備等の点検を計画的・組織的に行い、施設設備等に不備がある場合は、学校業務や機動班、市教委等に依頼し早急に対処した。 ・緊急性の有無や連絡の内容により、さくら連絡網を有効活用し、保護者や学校関係者に周知するとともに協力を要請した。 ・登下校時、危険が予想される箇所について周知し、地域と連携を図り安全に配慮した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に丁寧な安全点検を実施し、不備の早期発見と早急な対処を行う。 ・児童の健康や安全に関する情報を適宜ホームページやさくら連絡網等で発信していく。 	児童	教職員	保護者	地域		100	94.8	100		100	92.4	100
児童	教職員	保護者	地域												
	100	94.8	100												
	100	92.4	100												

A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。
【数値指標】全体アンケートの「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタル（一人一台端末、学校用グループウェア、校務支援システム、デジタル連絡ツールなど）を積極的に活用している。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上

- ・ICT機器を学習内容に応じて活用しやすいように整備する。
- ・授業の工夫を図るため、ICT支援員を活用する。
- ・児童や教師のニーズ、学習内容や発達段階に応じて活用していく。
- ・タブレット端末の授業内での活用を図り、日常的に使用できるようにする。
- ・ミライムの掲示板やメッセージ、アンケート機能等を、校務に活用していく。

(達成状況) A20 (○)

児童	教職員	保護者	地域
	100		
	100		

- ・ICT支援員の協力のもと、学習内容に応じて、積極的に活用し授業を行った。
- ・教職員間で有効なタブレットの活用方法を共有し、授業に活用した。
- ・ミライムの掲示板やメッセージ、アンケート機能等を、校務に積極的に活用した。

【次年度の方針】

- ・継続して、ICT機器を学習内容に応じて活用し、指導の充実を図る。また、校務改善を図る。
- ・校務での効果的なAIの活用を検討、推進していく。

B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。
【数値指標】全体アンケートの「私は、時と場に応じたあいさつをしている」⇒児童の肯定的回答 90%以上

- 家庭・地域と連携した「みやのはらあいさつ運動」を継続し、あいさつの定着を図る。（「みやのはらあいさつの日」毎月1日）また、地域学校園で共通する目標を設定し、小中一貫した「あいさつ運動」を推進する。
- ・教職員が率先してあいさつをする。
- ・道徳や特別活動を中心に、発達段階に応じて、時間や相手に応じたあいさつを具体的に指導する。
- ・代表委員会だけでなく、児童が主体的に参加できる「あいさつ運動」を実施し、意識を高めるようにする。
- ・あいさつ標語の募集をとおして、家庭や地域と連携したあいさつの推進を行う。

【達成状況】 B1 (○)

児童	教職員	保護者	地域
95.3	100	86.7	94.4
96.2	100	89.0	100

- ・時と場に応じたあいさつを具体的に示したり、児童会や中学校と連携した「あいさつ運動」を展開したりしてあいさつの定着を図ってきた。また、ボランティアで「あいさつ運動」に参加する児童を募った。
- ・あいさつ標語の募集を通して、家庭や地域と連携したあいさつの推進を行った。

【次年度の方針】

- ・地域学校園で共通する目標を設定し、小中一貫した「あいさつ運動」を行う。
- ・あいさつ標語の募集を通して、家庭や地域と連携したあいさつの推進を行う。
- ・教職員も率先してあいさつをしながら、更に意識付けを図っていく。

<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「宮小3つの約束」「宮小こどものきまり」「学びのマナー」を活用し、共通理解を図りながら望ましい行動習慣の形成に努める。 ・生活目標について全職員で共通理解しながら、継続的に指導する。児童が個人用パソコンを使って、自分の生活を振り返る機会を設けたり、他の児童に広げたりする活動を行う。 ・生活目標について、児童会を中心にきまりやマナーについて呼び掛ける期間を設ける。 	<p style="text-align: center;">B</p>	<p>【達成状況】B2 (○)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>92.1</td> <td>100</td> <td>95.8</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>92.4</td> <td>100</td> <td>94.4</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「宮小3つの約束」「宮小こどものきまり」「学びのマナー」を全職員で共通理解を図り、学校生活目標に活かすなどして望ましい行動習慣についての呼び掛けを行った。 ・ 学校生活目標について、帰りの会などで自身の生活態度を振り返る時間を設けた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き「宮小3つの約束」「宮小こどものきまり」「学びのマナー」を活用し、共通理解を図りながら指導の充実を図っていく。 ・ 「学校生活目標」について、児童が目標を守って生活しようとする意識が高まるように、引き続き放送で呼び掛けたり振り返りの機会を設けたりする。 	児童	教職員	保護者	地域	92.1	100	95.8	100	92.4	100	94.4	100
児童	教職員	保護者	地域												
92.1	100	95.8	100												
92.4	100	94.4	100												
<p>B3 「魅力ある学校づくり地域協議会」を有効活用し、学校経営の充実を図る。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「学校は、学校で課題となっていることを積極的に説明し、協議会の意見を反映している。」 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の現状や課題となっていることを地域協議会の場で説明し、そこでの意見を反映するとともに、課題を共有して課題解決にあたる。 ・ 地域協議会を中心に、地域人材を効果的に活用した学校行事や授業を実施し、学校教育の充実にあたる。 	<p style="text-align: center;">B</p>	<p>【達成状況】B3 (○)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: left;">/</td> <td>95.5</td> <td style="text-align: left;">/</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">/</td> <td>100</td> <td style="text-align: left;">/</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域協議会において、学校経営方針や課題を説明し、地域と学校が連携・協力した活動を実施するよう心掛けた。 ・ あいさつ運動や登下校指導、地区内の環境点検等で、地域の方々の積極的な協力を得ることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校での課題を精査し、協議会の方と相談しながら地域人材の活用を推進し、地域との交流など効果的な体験活動を積極的に実施し、学校教育が一層充実するよう努める。 	児童	教職員	保護者	地域	/	95.5	/	100	/	100	/	100
児童	教職員	保護者	地域												
/	95.5	/	100												
/	100	/	100												

<p>B4 児童は、学校生活の中で、係や当番・清掃・仕事などの活動に進んで取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】学校独自質問の「わたしは、お手伝いや係の仕事、ボランティア活動などをしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動について、児童会が主体となって呼び掛けたり、活動の様子を学校だよりや学校ホームページ、児童会だよりなどの様々なツールで紹介したりして、意欲を高めたり、充実感を味わわせたりする。 ・道徳の時間などでボランティアの意義や助け合うことの大切さを教える。 ・係活動や当番活動、縦割り班活動を通して、働くことの意義を学び、達成感や喜びを味わわせる。 	<p>B</p>	<p>【達成状況】B4 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>93.5</td> <td>100</td> <td>93.0</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>96.2</td> <td>100</td> <td>92.6</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉掃きや清掃ボランティア等の活動について、児童会が主体となって呼び掛けたり、活動の様子を学校だよりなどで紹介したりして、意欲を高めていった。 ・道徳の時間などでボランティアの意義や助け合うことの大切さを理解できるようにした。 ・係活動や当番活動を各クラスで工夫し、働くことの意義を学び、喜びを味わわせられるように努めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動について、児童会が主体となって呼び掛けたり、活動の様子を様々なツールで紹介したりして、意欲を高めたり、充実感を味わわせたりする。 ・道徳の時間などでボランティアの意義や助け合うことの大切さを考えさせる。 ・係活動や当番活動を通して、働くことの意義を学び、達成感や喜びを味わわせる。 	児童	教職員	保護者	地域	93.5	100	93.0	100	96.2	100	92.6	100
児童	教職員	保護者	地域												
93.5	100	93.0	100												
96.2	100	92.6	100												
<p>B5 家庭学習の習慣が身に付いている。</p> <p>【数値指標】学校独自質問の「わたしは、決められた宿題に取り組んだり、工夫して自主学習に取り組んだりしている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習カレンダー&振り返りカードを活用して宿題や音読、自主学習に継続的に取り組めるようにする。 ・学年ごとに、発達段階に応じた自主学習の内容と方法を具体的に示し指導する。 ・家庭学習の定着の意義や学校での指導内容を、学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ、より一層の理解や協力を得られるように努める。 ・「家庭学習強化週間」を実施し、期間中の家庭学習カードに、児童が目標を設定して取組について振り返ったり、保護者のコメントをもらったりする欄を設け、取組の徹底・充実を図る。 	<p>A</p>	<p>達成状況】B5 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>86.4</td> <td>100</td> <td>77.5</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>82.7</td> <td>100</td> <td>74.8</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の家庭学習の取組について、認め励ましたり、アドバイスをしたりして意欲を高めてきた。 ・「家庭学習強化週間」を実施し、家庭も巻き込んだ取組みを行い、充実を図った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルの課題を活用し、自主的に学習に取り組めるようにする。 ・児童自身が家庭学習の必要性を実感できるよう、ねらいを明確化する。 	児童	教職員	保護者	地域	86.4	100	77.5	100	82.7	100	74.8	100
児童	教職員	保護者	地域												
86.4	100	77.5	100												
82.7	100	74.8	100												

	<p>B6児童は、本をよく読んでいる。</p> <p>【数値指標】学校独自質問の「わたしは、本を読んでいる」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「本はともだちプロジェクト」の実践、家読（うちどく）の奨励等を通して、家庭読書の充実を図る。 ・読書の質の深化を図るような図書室利用を工夫する（学校司書と連携した読書指導の実践・個に応じた選書支援（読書コンシェルジュ）・学校のオアシスとしての環境づくり、蔵書の充実）。 ・多読者の表彰の場を継続して読書への意欲を高める。 ・読んだ本の感想を記録・蓄積し、共有する機会をつくることで、読書の幅を広げる。 ・水曜日に読書タイムを設定する。また、けやき読書週間中は、朝の学習を読書、家庭学習で読書の宿題を出し、集中して読書に取り組む。 ・学校ホームページに読書活動の様子をアップし、保護者や地域の方に取組が伝わるように発信していく。 ・個人用パソコンでの新刊紹介など、パソコンの活用が読書活動に結びつくような取り組みを行う。 ・読み聞かせボランティアの活動を、学校だよりやホームページで発信していく。 	<p>【達成状況】B6（○）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>81.0</td> <td>86.4</td> <td>62.8</td> <td>90.9</td> </tr> <tr> <td>74.7</td> <td>100</td> <td>59.4</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	児童	教職員	保護者	地域	81.0	86.4	62.8	90.9	74.7	100	59.4	100
			児童	教職員	保護者	地域									
81.0	86.4	62.8	90.9												
74.7	100	59.4	100												
			<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校司書との連携やボランティアによる読み聞かせ、多読者の表彰など、読書に親しむ環境づくりを徹底した。 ・「本はともだちプロジェクト」や「ブックレター」を通じ、家読の重要性を継続して発信してきた。多読者へのプレゼントや表彰など、児童の動機付けに向けた多様な工夫を行った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書量の確保に加え、児童が「読みたい本」にいつでもどこでも出会える環境を整える。宇都宮市電子図書館の積極的な活用を促す。 ・引き続き「本はともだちプロジェクト」の実践、家読の奨励等を通して、家庭読書の充実を図り、多読者の表彰の場を設定し、読書への意欲を高める。家庭での読書が負担ではなく「親子の対話の場」となるような発信を工夫する。宿題としての読書だけでなく、読みたくなるような選書情報の提供など、家庭での読書活動の方法を検討する。 												

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・今年度、宇都宮市共通の質問20問と、学校独自質問6問でアンケートを実施した。「肯定的回答割合が昨年度よりも5ポイント以上増加、または市全体よりも5ポイント以上高い」の項目を取組の成果が認められたものとした。一方、「肯定的回答割合が昨年度よりも5ポイント以上減少、または、肯定的回答割合が80%未満」の項目を取組の成果が十分でなかったものとした。
- ・学習に関して本校では、児童一人一人が自ら課題を見付け、主体的に学習に取り組めるよう、学年や教科に応じた魅力的な学習課題の設定や、個人の考えを深められる場面や伝えあえる場面の設定を意識したり、一人一台端末を活用したりするなどして、学び合いがより深まる取組を推進してきた。A1「児童は他者と協力したり、必要な情報を集めたりするなど、主体的に学習に取り組んでいる」の肯定的回答割合は、児童・教職員・保護者の全対象において市平均を上回っている。特に保護者においては、令和6年度より5ポイント以上増加するとともに、市平均より5ポイント以上高くなっている。一方でB5「宿題や自主学習をしている」では、児童・保護者ともに昨年度より数値が下回り、保護者においては80%に達していない。児童が自主的に学習に取り組めるよう、デジタルドリルの課題を活用するなど工夫したり、家庭学習の必要性を実感できるようねらいを明確化したりするなどして、継続的に取り組めるような手だてを講じていく。
- ・A7「宇都宮の良さを知っている」では、生活科や社会科・総合的な学習の時間（宇都宮学）を通し、ふるさと宇都宮に興味をもち、よさを実感できるような体験学習や調べ学習を取り入れてきた。また、給食時の放送では、地元産食材や郷土食の紹介を継続して行ってきた。A7「宇都宮の良さを知っている」では、各対象において市平均を上回っている。保護者の肯定的回答割合は80%に達してはいないが、昨年度より4.4ポイント増加している。取組を継続するとともに、各種たよりやHPなどでの周知にも力を入れていきたい。
- ・本校では今年度の学校課題の研究主題を「互いに認め合い、進んで学び合える学級づくり」として、「互いのよさを見つけ、認め合える集団づくり」と「自分の思いや考えをもち、進んで学び合うことができる授業づくり」に取り組んできた。取組を通して、お互いに認め合える雰囲気醸成されるとともに、自ら考え、行動する姿が多く見られるようになった。A2「思いやりの心をもっている」、A5「自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとして

いる」では、各対象において高い肯定的回答割合を得ている。

教職員もチームとして学級担任と連携し、学校課題に取り組んできた成果として、A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている」では、児童・教職員・保護者の全対象において、98ポイントを上回る肯定的回答割合を得た。A13「学校は一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である」においても、各対象で高い肯定的回答割合となっている。また、A11「教職員はいじめが許されない行為である」についても、児童・教職員・保護者・地域住民の全対象において市平均を上回っているが、保護者の数値は前年度より約2ポイント低くなっているため、活動の継続・充実とともに積極的に情報発信に努め、保護者への啓発に努めていく。

- ・ 読書については、水曜日の朝に「読書タイム」を設定したり、授業での図書室利用、読書週間の設定や家読（うちどく）の奨励、多読者の表彰、ボランティアによる読み聞かせ等の取組を行ったりしてきたが、B6「児童は、本をよく読んでいる」の児童・保護者の肯定的回答割合は令和6年度より低下している。調べ学習の際に、個人用パソコン等ICT機器を活用する機会が増加していることも一因と考えられるが、図書と併用するなど、本にふれる機会を意図的に増やしたり、家読が「親子の対話の場」となるような発信を工夫したりするなど、各取組の継続及び充実を図るとともに、実践について発信していく。
- A17「小中一貫教育・地域学校園の取組」A18「家庭・地域・企業等との連携・協力」については、どちらも各対象において高い肯定的回答割合を得た。保護者においては、令和6年度よりどちらも5ポイント以上増加し、特にA17では、市平均を12.3ポイントも上回る結果となった。地域や一条中学校と連携した「あいさつ運動」、運動会や地域行事への多くの中学生ボランティアの参加、中学校教員による乗り入れ授業をはじめ、継続してきた取組の成果と考えられる。B1「時と場に応じたあいさつをしている」においても各対象ともに高い肯定的回答割合を得ている。また、学習や体力向上・図書館教育・食育・児童生徒指導等においても、地域学校園で連携した取組が充実している。地域・企業等との協働では、校外学習や出前講座における地域人材や企業の協力、多くの行事における地域との連携など、地域の教育力を生かした取組の充実が図られており、今後も本校の強みとして生かしていきたい。

7 学校関係者評価

- ・ 校内に掲示されている児童の作品には、教職員によるあたたかいコメントが添えられており、児童に伝わるやさしい気持ちが満ち溢れている。
- ・ B5「家庭学習の習慣が身に付いている。」B6「児童は、本をよく読んでいる。」について、保護者の数値がシビアである。家庭学習定着の意義に対する理解促進や、家読（うちどく）の奨励、学校で実際に行っている取組の紹介など、より保護者に伝わるような情報発信の工夫が必要ではないか。
- ・ 暴力動画の拡散など、SNSを介したいじめが社会問題となっている。いじめ防止の取組の一つとして、インターネットのモラルやマナーについての指導も強化してほしい。また、児童がSOSを発信できる機会や場所の周知も必要かと思われる。
- ・ 教職員の児童指導の様子からは、熱心さが伝わってくるが、指導の際の言葉遣いなど、児童の人権に配慮した言動を心掛けてほしい。
- ・ コロナ禍以降、児童のあいさつの声が小さくなってきている。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校経営】

- ・ 知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育む教育を実践し、カリキュラムマネジメントにより学習効果の向上を図るとともに、「自ら考え主体的に学ぶ子ども（本気で学べ）」「たくましい心と健やかな体をもち、元気でがんばれる子ども（元気に遊べ）」「正しい判断力をもち、明るく思いやりのある心豊かな子ども（正しく生きよ）」「人や社会のために進んで働く子ども（喜んで働く）」を目指す子ども像として学校・保護者・地域が連携協働しながら特色ある教育活動「宮小けやきプラン」を策定・推進していく。
- ・ 地域協議会との連携し、地域教育力の積極的な活用と人材発掘、地域行事との連携、積極的な情報発信と学校公開等を通して、家庭・地域と一体となった地域に根差した取組の充実を図り、「地域とともにある学校づくり」に努める。
- 一条地域学校園（小中4校）の連携により、積極的な情報共有と児童生徒の実態に即した取組を通して小中一貫教育を推進する。

【学習指導】

- ・ 児童一人一人が自ら課題を見付け、主体的に学習に取り組めるよう、学年や教科に応じた魅力的な学習課題の設定や考えを深めたり伝えあう場面を設定したり、ICT機器を活用したりするなどして、学び合いがより深まる取組を推進していく。

- ・ 水曜日の「読書タイム」や読書週間の設定，家読（うちどく）の推奨，授業での図書室利用，読書ボランティアによる読み聞かせ等を継続実施し，読書の習慣化を図っていく。

【児童指導】

- ・ 「宮小3つの約束」「宮小子どものきまり」「学びのマナー」を全教職員で共通理解を図るとともに，家庭や地域と連携し，指導の充実を図ることで，基本的な生活習慣の定着を図っていく。
- 一条地域学校園及び，家庭・地域との協働によるあいさつ運動を推進する。
- ・ 道徳教育の充実，異学年交流やボランティア活動の実施，「宮の原ワード」の活用など教育活動全般を通して「思いやりの心」を育てていく。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・ 体力づくりを推進するために，自ら健康を心がけ身体づくりに励めるよう，体育の授業や行事，外遊び等の工夫に努める。
- 地域学校園で連携した，体力づくりや保健・食育への取組を推進し，健康についての意識づけを図る。
- ・ あらゆる災害を想定した避難訓練の実施や登下校指導の充実を図り，安全な生活への意識づけを図る。